楽知り研究所 パンフレット



1700年代後半、オランダでの静電気実験講座の様子



NPO 法人 楽知ん研究所

since 1993(NPO 法人 2005) http://www.luctin.org/



©KOIDE Masavuki

みんなの 脳ミソが喜ぶ, たのしい 笑顔の流れを つくりたい!

楽知ん研究所つて何?

私たち楽知ん研究所は,

「科学は知的エンターテイメント (=たのしみごと) である」

「たのしい科学と科学教育の伝統にたちかえる」

という立場に立って活動している特定非営利活動法人 (NPO 法人としては 2005 年 7 月設立、それ以前も 1993 年から活動) です。 学校教育以外の場でも、多くの人が気軽に、あるいは本格的に科学を楽しめるように、その内容 (ソフト・ハードの両面から) の研究開発、普及を行っています。中心メンバーには、教師のほか、会社員、公務員、自営業、学生など様々な人がいて、全国に散らばっています。

私たちの活動の趣旨

●「たのしみごと」としての科学

「科学」はもともと、1600年代の貴族やお金持ちのアマチュアによる「知的エンターテイメント」=「たのしみごと」として始まりました。

1700年代のヨーロッパや植民地アメリカでは、貴族や一般市民を対象にした〈公開科学実験講座〉が数多く開かれました。それらの講座は非常に人気がありました。その後、実験器具を荷馬車に積んで各地を回り講座を開く〈巡回実験講師〉が登場するようになったほどです。人々はこれらの講座に高額な参加費(1回あたり数千円から数万円)を支払い楽しんで参加しました。

しかしその後、「科学教育」は学校教育に取り入れられ制度化され、「科学研究」そのものもプロの職業科学者によってもっぱら担われるようになりました。それに伴い、科学は「たのしみごと」から「義務として学ぶべき知識」「産業発展のための基礎教育」となり、多くの人々には「難しいもの」「自分には理解できないもの」「近寄り難いもの」になっていったのでした。



若い女性講師による大道仮説実験〈しゅぽしゅぽ〉

●たのしい科学の伝統にたちかえる

そこで、私たちは、〈たのしい科学や科学教育の伝統〉にたちかえり、家庭や地域の集まりなどの学校教育の場以外でも多くの人が 科学を気軽に、そして本格的に楽しめるような試みをしてきました。

私たちのこうした活動は、楽知ん研究所の顧問である板倉聖宣さん(私立板倉研究室室長,国立教育政策研究所名誉所員)によって1963年に提唱された仮説実験授業の思想と方法論の上にたっています。仮説実験授業は、科学の原理原則がわかり、イメージが形成され、さらには哲学的なことにも思いをはせることができます。今までに授業を受けた子どもや大人たちには、圧倒的に支持されています。

1700年代の科学は「自然哲学(ナチュラル・フィロソフィー)」と呼ばれていました。サイエンスではなく、いわば「自然哲学」を現代に復活させたいと私たちは思っています。そこが、先端科学技術をわかりやすく紹介するとか、ただ現象的にびつくりさせる科学実験ショーのような活動とは、全く違う点です

子どもたちが群がる 大道仮説実験〈ころりん〉

100 億倍の水の分子のアドバルーン

3

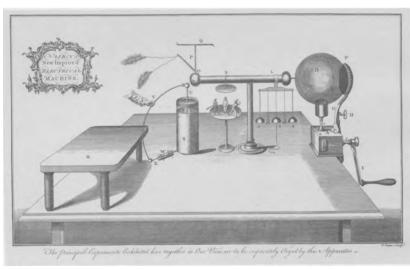
●成熟経済時代でのたのしい研究組織のあり方

1600年代や1700年代の英国で、たのしい科学研究をすすめた王 認学会やルーナーソサエティ (月夜の会)などは、みな民間の非営利組織でした。今でいえば、まさにNPO法人のようなものです。その活動を楽しみ、支持する貴族やお金持ちが会員やパトロンとなって運営資金を出し合って維持されてきました。しかし、現在の日本には、貴族はいませんし、私たちの知りあいにも残念ながら大金持ちはいません (^^;)。

今までは、税金によってみんなから集められたお金で、政府の判断で大学や研究所、学校がつくられ、サラリーマンとしての職業研究者や職業教師が雇われ、研究や教育が行われてきました。

これからの成熟経済時代には、たのしい科学の伝統にたちかえった、いわば「産地直送版」のお金の流れをつくって、運営を維持する民間の研究所や科学を教える場所ができてくると私たちは考えます。そうなれば、もっともっと面白い社会になっていくに違いないと予想しています。

楽知ん研究所のNPO法人化は、そのささやかな実験の第一歩です。 ぜひ、みなさんもこの実験に参加してみませんか?



1700 年代のヨーロッパで売られていた静電気実験器具セット

主な活動内容は?

現在の楽知ん研究所の主な活動は、以下の4つです。

①気軽にたのしめる「大道仮説実験」の研究開発普及。

大道仮説実験が、名人ではなく誰でもできるように、そのためのソフト、出版物、実験器具の販売もしています。さらに、2002年より毎年12月の最後の週末に、100~200人規模で大道仮説実験ワークショップをおこなっています。

②本格的科学入門教育「親子(孫)でたのしい仮説実験講座」の開催としくみづくり。

夏休みを中心に、本格的に科学に入門できる仮説実験授業の授業書を丸ごとたのしむ連続講座を全国10数か所で開催しています。

③ 1700 年代を中心とした公開科学実験講座についての科学史を掘り起こす基礎研究。

大道仮説実験は、1700年代の公開科学実験講座でのたのしい科学教育のことを研究することで生まれました。現代に引き継ぐに値するが、埋もれてしまっている……そんな価値のあるものを科学史から掘り起こす基礎研究をすすめています。

④たのしい科学や科学教育の伝統を復活させるための社会のあり方, 社会のお金の流れ,経済的独立へ至るための勉強,研究。

たのしい科学研究や科学教育は、みんなが経済的に安心できる 社会でないと発展していきません。私たちの活動を維持、発展さ せていく〈お金の流れ〉についても勉強、研究していきます。



あなたも「楽知んサポーター」になりませんか?

●成熟社会での教育や研究へのお金の流れ

現在の日本の学校(私立も含む)や研究所などが、税金によって全部、あるいは一部が補助金(これも税金)によって維持されているのは、理由がないことではありません。教育や研究は「公のサービス」という側面が強く、そこからの利益だけで維持していくことが難しいからです。

しかし、税金によって運営されることで、公のサービスの質がなかなか良くなっていかない面もあるのは他の分野と同じです。教育や研究の場でも、成熟経済社会では、より多様な、質の高いサービスの提供が求められるように益々なっていくでしょう。

そこで、私たちはNPO法人という選択肢をとりました。これからは教育や研究の分野でも、実験をくりかえして、いろんな試みをしていくほかはないでしょう。

NPO 法人は、「非営利で民間」というしくみです。つまり、民間で、教育や研究などの非営利な公のサービスの活動をします。NPO 法人ならお役所仕事とは違って、いろいろ思い切ったことをやれます(もちろん時には失敗するかもしれません)。

だがしかし、大きなお金の流れをつくることは、楽知ん研究所の活動では無理です。だから、営利活動 (株式会社) という選択肢をとらず、非営利民間 (NPO 法人) を選択したわけです。しかし、何事もお金が必要です。



1800 年代はじめの江戸時代に、静電気実験がおこなわれていた大阪の寺子屋での百人おどし

●楽知ん研究所のサポーターとは?

そこで、NPO法人には「会費」というシステムがあります。楽知ん研究所では、それを「サポーター会費」と呼んでいます

- ・楽知ん研究所の生産物により、大道仮説実験などの講師をやって (他人の笑顔)をうむことができ、自分も満足されている方。
- ・楽知ん研究所の活動をサポーターとして末長く応援したいと思って下さる方。
- ・直接の金銭的なリターンはない(お金を投資した人に金銭的なリターンがないしくみを「非営利活動」と言います)けれど、自分はもちるん、〈他人の笑顔〉が増えていく社会を望んでおられる方。
- ・経済的独立をしたり、まとまった資産があったりして、お金の 使い方に困っていらっしゃる方。

……成熟経済社会ならではの、あなたの「お金の働かせ方」はいかがでしょうか?

「サポーター会費を払うと、何かもらえるの?」

とよく聞かれるのですが、その答えは……「何ももらえません」 (^^;)。「会費」という言葉が誤解を招くのですが、「会費」は何か の物やサービスの対価ではありません。「会費」は、株式会社でい えば「出資」に当たります。株式会社では、出資に対して、事業が うまくいけば、出資者(株主)に金銭的なリターンがあります。

一方、NPOでは、その「会費」によって事業が成功しても金銭的なリターンはありません(利益を出資者に還元しない事業を非営利といいます)。 そのかわり 笑顔の リターン があります。 さらに、会費を出した人だけでなく、もっと多くの人に 笑顔が広がり、100 年後の笑顔にもつながっていくかもしれません。



親子(孫)でたのしい仮説実験講座



バンジーチャイムで笑顔が広がる

●お金の働かせ方の1つとしてご検討下さい

お金には、大きく分けると

- ①消費する (物やサービスに対する対価)
- (2)働いてもらう(投資,貸す,寄付,税金)

の2つの使い方があります。「サポーター会費」というのは、②の「お金に働いてもらう」という使い方の1つです。自分では直接に働かなくても、自分のお金に働いてもらうわけです。

1600年代や1700年代のヨーロッパの貴族や大金持ちのように、パトロンとして、楽知ん研究所の運営資金の応援をしていただくということなのです。

NPO 法人楽知ん研究所では、以下のお金の働かせ方があります。

◎サポーター会費 1万円/年

1年ごとに自分のお金を働かせる方法です。1か月830円ちょっと、1日30円弱です。4~5日ごとに自販機で缶ジュースやペットボトルのお茶を1本買うくらいの応援です。

◎寄付 1万円より多く、上限なし

「そんなお金では支援したことにならない」とおっしゃる方は、「寄付」というお金を働かせる方法もあります。

サポーター会費,寄付の申し込みは、以下をメールか FAX でお知らせ下されば、振り込み先の銀行口座をお知らせいたします。

- ①お名前, ②〒住所, ③〇, ④メールアドレス,
- ⑤「サポーター会費」か「寄付」かを明記、⑥コメント

あるいは、以上を郵便振替用紙にお書きの上、下記の口座へ振り 込みをお願いします。

メール: mail@luctin.org

FAX or a: 052-702-6907 (aは夜7~10時のみ)

郵便振替口座:00150-4-354862 楽知ん研究所千葉事務局